



発行人 市民ひろば編集委員会
〒411-0858
三島市中央町3-32 小出ビル1F
代表 小野 啓一
電話：055-955-5095
http://shiroba.web.fc2.com/
smn_hiroba@yahoo.co.jp
郵便 12340-51078941

ひろばは新聞定期購読者募集
申し込みは上記連絡先へ
毎月3000部発行
年額1000円



書き留めて
あさの かずこ
青葉間かげ深く揺れ揺れてメーデー
のない五月はじまる
日本メーデーは一九二〇年から
豆ごはんあおい匂いが届いた
年重ね 今その匂いが御馳走
一句のものには力がある

派遣、非正規、外国人労働者の現状は コロナ禍、非正規の雇用危機

コロナ禍による自粛解除後、経済活動は徐々に回復に向かう動きはあるが、雇用や経済状況が一気に復旧する兆しはまだ見えない。派遣や非正規労働者は解雇や雇止めを深刻な状況に陥っている。厚生労働省によると今月に入りコロナ関連の解雇・雇止めは2万人を超え、そのうち非正規労働者は5千人近くに上るとのこと。静岡県下の様子はどうか探った。

東部では

以前沼津に住んでいたペルー籍の女性の話を聞いた。日本人で病身の夫を抱え、働いた息子はサービス残業を強いられ会社を辞めた。介護を要する高齢の母親を抱え、仕事も思うように出来ないで、生活保護を申請した。しかし持ち家があるとのことで門前払い。その後、親戚のいる群馬に転居。コロナ禍で失業し、食糧援助を求め地元で生活保護申請に相談に行ったら「友達にお願いしたら」と素っ気ない対応で愕然とした。遠く三島の支援団体に救援依頼が届いた。



外国人支援団体の食料配給を受ける人々(三島市大場)

また、20年以上前に来日した50代の日系フィリピン労働者。清水町にある白井産業下請けの派遣で働いていたが、一昨年労働派遣で働いていたが、一昨年労働



裸の王様

県原子力学会議何てほとんどの人は知らない。原子力学会議とは、川勝知事の肝いりで、浜岡原発の防災については、県学術会議で独自の検証してもらうとして2010年発足した専門学術会議で、4つの分科会・専門部会からなり全国20人の委員を委嘱している。ただ、浜岡原発再稼働そのものは議論しないかのような回答を事務局がするなどその位置づけはいささか不透明である。

「学術会議と原子力カムラ」

「日本のエネルギーが危ない！」「いまこそ原発が必要」と論陣を張っている。櫻井よしこは先般、地元の葦山高校で

月11世帯、4月は10世帯、5月は7世帯。昨年5月は9世帯だった。三島市では、特別コロナ禍で生活保護申請が急増している訳でもないとのこと。

個人加盟の県下地域ユニオンの情報では、特に西部、中部地区でコロナ要因の労働相談が急速に増えている。中部地区の観光関係やホテル・宿泊業は、中国からの観光客が激減し、休業2日、3日、4日と増えるも休業手当不支給。静岡県競輪イ

中部では

この最近、彼らの大義名分は地球温暖化・CO2削減に原発が必要との主張である。地球が温暖化しているのかどうかに疑問を持つ学術者もいる。温暖化CO2説には更に疑問を持つ人がいる。それはさて置くとしても、国連気候サミツ

西部では

浜松を中心とした西部では、ススキ、ホウダ、ヤマハの各大手自動車製造業と関連下請け企業がひしめいている。それらも休業手当不支給。静岡県競輪イ

先日三島の市議会中継を見ていて驚いた！
緊急事態宣言が解除されコロナは少し落ち着いた感はあるけれど、政府が言うように第2波、第3波の可能性もあり、未だ収束の見通しすら立っていないのが実情。しかもコロナの影響による三島の減収は今年度は6億、来年度は約16億減収を想定しているという。そんな中、三島市は三島駅南口東街区再開事業を推し進めてきた。それに

必要なのはたくさんある。例えばコロナが問いかける問題に災害避難がある。従来型では3蜜が不可避だ。もちろん避難所の増設や運営も対策が必要だが、車で往ける避難所も創設する必要がある。例えば箱根の里等、トイレやある程度の宿泊施設がある場所を開放し、避難所として作ってほしい。ベットや障害のある方等、利用したい人は多いだろう。それと共に避難のあり方も検討が必要だ。自分の住む場所がハザードマップでどうなっているか、どんな時に避難が必要か、そういうことをお金のかけつけなくてはならない。商店街だって、このままでは閉めなくてはならないところもたくさんあるだろう。学校教育も、コロナ対策を先生方に任せきりでよいのだろうか。観覧車についても見直しが必要。インバウンドの増加を自論みお手軽に儲けるという考えは捨てよう。まず、住んでいる人が幸せに暮らしていることが第一であり、自分の住む地域や近辺でそういう生活を疑似体験できるような転換をしなければいけない。そういう意味でも駅前開発ははたして立ち止まって見直すべきかと思ふ。

市民のみならず、コロナを乗り切らなければならない。コロナを乗り越えるための必要対策を市に求めよう。市はロクに考えていない。想定もしていない。どんな対策が必要なのか、知らせておかないと、私たちの税金を、私たちの益のために使われてしまふよ！

三島はコロナ第2,3波は仮

豊岡市長の議会答弁

第3波は仮の話である。今後ワクチンもできるのだから、コロナは終息に向かう、再開発事業で雇用を生まなければならない」と答えた。議員「仮の話をするのが議会です、5年後の雇用より今の命と暮らしを守るべきだと思いませんか？」
えう市長も市当局もどう考えているの？と違うじゃん。「新しい生活」はなくなったの？コロナが収束するかわからないし、コロナ前と同じ「賑わい」とか「5年後の雇用」とかどう

等々のユニオンへの労働相談が相次いだ。しかし、国の「雇用調整助成金制度」が動き始めてそれらの相談は落ち着いて来た。一方、飲食店などで働く非正規労働者の相談が急増したとのこと。
今、急がなければならないのは、困窮したフリーランスや派遣、非正規労働者の実効性のある緊急救済策ではないか。果たして三島市にそんな姿勢はあるか？
(考)

百千鳥

▼100年前のスペイン風邪の世界的大流行の時、三島の状況はどうなっていたかはよく分からない。文字として記録が見つからなかっただけで、当時の人たちは、伝染病として今のコロナと同じ程度の恐怖を抱いていたのではなからうか。当時の内務省の記録として、東洋文庫778「流行性感冒」を読むことが出来る。▼しかし、人生50年と言われた当時からすれば二世代前の話で、記憶も曖昧だったに違いない。疫病の流行は通り過ぎれば目も覚めるものは残らない。人々の記憶の中だけで、文字化されなければ忘却の彼方に消えてしまふ。今回のコロナウイルス対策も対策会議の議事録は公式にはかなり複雑なものらしい。▼政府は世界に誇れる対策をしたと自ら自賛しているが、世界からは記録をしっかりと残していないと、時の為政者として不利なことも多かったと記録に残すことは民主主義国家の基本である。今の日本、特に安倍政権はこの基本を理解していない。だから公文書の改ざんまがいのことが行われている気がする。▼それに対して自然災害は爪痕が残る。復興しても伝承として残ることが多い。30年近く前の大場川の増水で沿岸の家が流されてたことはまだ記憶に新しい。今でも場所が特定でき、その様子は語り継がれている。▼ところで今回のコロナ禍で三島市の対策はどう評価されるのだろうか。コロナ対策を放り出し、三島駅南口開発や高層マンションを建てる計画は推進したいようだが、借金まみれの開発は「ごめん、次世代の市民が三島駅前の高層マンションを見て無念に思うようなことはして欲しくない」。▼疫病の流行は自然災害のように痕跡が残る事はほとんどない。人々の記憶が薄れないうちに文字化しておくことが必要だ。それも秘密の底にしまわれぬうちに庶民の手によって。新聞のスクラップでも良い。接吻者の日々の記録も後々の良い資料になる。今の状況を忘れないように記録を残しておく。

▼100年前の庶民の記録が、誰かの日記帳として、又は商店の大福帳の片隅に残っていないだろうか。もし見つかるならば貴重な資料になるだろう。

ジントの天然野菜マーケット
三島市役所北側小出ビル前
毎週日曜11時～13時
採れたての安全 お野菜・果物・卵
こだわりの手作り お菓子・惣菜・保存食
売ってます(・_・)
お問合せ 08030611561 原田

土と光とよりの歯医者さん
食育指導中心型の自然派治療の歯医者さんです。
虫歯にしない親子お料理教室や歯科トレーニングでロ元をきれいにするイベントなども行います。
〒411-0833 静岡県三島市中101-1
電話：055-973-2358

文盛堂書店
定期購読の雑誌等、配達承ります
営業時間 9:30~19:00
住所 三島市中央町2-37 (中央町商店街)
電話 055-975-4229
FAX 055-972-3319
定休日 元旦
http://www.e-hon.ne.jp/bec/SHOP52033

長い歴史に培われた確かな目
人生の節目に、信頼の置く
時計・宝飾・メガネ
小坂
時計の修理、電池交換はもちろん
お手持ちの宝石のリフォームなど
ぜひお気軽にご相談下さい
三島市本町3-1
055-975-1345

慈眼堂
赤ひげのはりときゅう
腰・肩・膝の「いたみ」どり
3回無料
認知症・糖尿病・ガンは
食事改善で
予防することが可能です
ご希望の方はお申し込み下さい
【治療時間】9:00～18:00
【休日】木・日
【住所】三島市谷田173-13-101
【TEL・FAX】055-976-8765